事務事業マネジメントシート ～平成29年度の振り返りから30年度の取組へ～

①計画⇒実施 (Plan⇒Do)

(3月中に記入)

事務事業名	自主文化公演開催事業				担当課	社会教育課	担当係	社会教育係										
長期振興計画の位置づけ	施策	芸術文化・文化財保護の充実			課長名	松下 成悟		担当者名	西山 泰秀									
	基本事業	芸術・文化活動の推進			事業年度	H25 -		(H29)	207807									
開始のきっかけや取り巻く状況	市民から一流の芸術文化を鑑賞する機会の提供を望む声が増えていたため、平成25年度から実施している。						(H30)	175904										
事業概要	対象	市民						事業主体	市									
	手段	自主文化公演を開催する。						実施計画	- 総合戦略 -									
	意図	芸術文化に興味・関心をもてる。						過疎	- 辺地 -									
年度別	前年度(平成28年度)				当該年度(平成29年度)				次年度(平成30年度)									
事業内容	自主文化公演を開催する。 公演演目の選定。公演にかかる契約。広報等。				自主文化公演を開催する。 公演演目の選定。公演にかかる契約。広報等。				自主文化公演を開催する。 公演演目の選定。公演にかかる契約。広報等。									
従事職員数(人)	担当課	3	関係課		臨時	3	担当課	3	関係課		臨時	3						
財源	決算額		437		(千円)		決算額		484		(千円)		予算額		938		(千円)	
	001 消耗品費	3			001 消耗品費	5			002 謝金	100			001 消耗品費	110				
	003 食糧費	5			003 食糧費	5			003 食糧費	10			004 印刷製本費	281				
	004 印刷製本費	91			004 印刷製本費	72			001 通運運搬費	7			002 手数料	10				
002 手数料	5			002 手数料	2			183 自主文化公演	400			183 自主文化公演	400					
183 自主文化公演	330			183 自主文化公演	400			030 著作権使用料	20									
001 原材料費	3																	
特定	70	一般	367	特定	38	一般	446	特定	70	一般	868							
評価指標(単位)	前年度(平成28年度)			当該年度(平成29年度)			次年度(H30)		前年度評価理由									
	中間値(事中評価)	実績値(事後評価)	目標値	中間値(事中評価)	実績値(事後評価)	目標値	中間値(事中評価)	目標値										
芸術文化に親しんでいる人の割合(%)		28.8	35		33.8	35		35	これまで文化係が事業を行っていたが、公演の実施など市民会館を今後活用していくという意味では、生涯学習関係を含めて平成29年度から社会教育係へ移行する。									
観覧者数(人)		780	350		265	800												
取組内容	芸術文化の振興を図ることを目的に、優れた芸術性をもつ団体を選定し、ふさわしい会場において公演を開催した。講演に際しては、チケット販売に係る事務や広報宣伝活動を行ない、多く市民に鑑賞してもらえるよう努めた。																	
成果	多くの市民の求める、一流の芸術の鑑賞機会を提供することで、芸術文化に親しみをもってもらうことができた。																	
課題	芸術文化の公演事業を市民グループや民間団体に委託することで、職員の業務の改善を図ることができる。しかし、市民グループや民間団体が事業を受託できる素地ができていないため、現在のところは難しいと考える。今後数年は行政主導で公演を開催していくが、段階的に外部への委託を検討していく必要がある。																	

担当者が入力

②-1 振り返り(Check)

課長が記入	評価の視点	主な見るべきポイント							check
	仕事の目的は正しく認識されているか	1	総合計画に掲げられる課題の解決手段になっているか?						○
		2	市が税金を投入して行うべき仕事か?						○
		3	正しい成果認識による成果の把握ができていないか?						○
	今後も有効に機能し続けるか	1	成果の向上余地はあるか?(限界に達していないか、環境変化等で効果が失われていないか)						○
		2	類似の事業が他にないか?(一本化しても良いような仕事か他課や他団体(国県等)にはないか)						○
		3	市民や事業所(企業・NPOなど)との役割分担は適切に認識されているか?						△
	効率的に行われているか	1	成果を落とさずに事業費を削減する方法(業務仕様や工法の工夫、外部委託等)はないか?						△
		2	業務のやり方を工夫して業務時間を削減できないか。正規職員以外でできる仕事ではないか?						△
	公平な仕組みになっているか	1	同じ条件をもった市民や団体が公平に扱われているか?						○
2		受益者負担は適正に設定されているか?(非受益者から見て納得が得られるか)						○	

事務事業マネジメントシート ～平成29年度の振り返りから30年度の取組へ～

②-2 振り返り(Check) ※委託料/負担金補助及び交付金/扶助費/貸付金の執行額がある場合には該当する欄を確認

課長が記入	評価の視点	主な見るべきポイント		check
	補助金・負担金支出により団体等を支援する事業	1	補助金、負担金支出の理由となる事業実績は把握されており、金額は適正か？	
2		交付団体が活動により生まれた成果の報告を受け、把握されているか？		
3		同種活動をする団体のうち一部の団体のみ交付するなど、不公平な仕組みになっていないか		
現金・現物の給付事業	1	所得制限が設定されているか。設定されていない場合、それが妥当と言えるか？		
	2	国・県その他の団体が行う事業と重複をしていないか。重複する場合、問題はないか？		
融資・貸与を行う事業	1	市の支援範囲は妥当か？		
	2	国・県その他の団体が行う事業と重複をしていないか。重複している場合、問題はないか？		
	3	融資事業では、債権管理が適切になされているか？		
委託事業	1	明確な目的のもとで委託がなされているか？		
	2	委託先が固定化していないか？固定している場合、自治法の随意契約理由に適っているか？		
	3	市が求める成果水準を達成しているか？		
	4	適切な委託費(予算)が確保されているか？		

② 【総合評価】振り返り(Check)

総合評価(課長)	評価結果の根拠及び今後の課題	総合評価
B	芸術文化に親しみを持たせるためにも一流の公演を実施することは、必要である。今後、数年間は、行政主導で公演を開催していくが、段階的に民間団体、市民グループへ委託することも検討していく必要がある。	

事務事業マネジメントシート ～平成29年度の振り返りから30年度の取組へ～

①計画⇒実施 (Plan⇒Do)

(3月中に記入)

事務事業名	地域振興推進事業(開発総合センター改修事業)		担当課	社会教育課		担当係	文化財係					
長期振興計画の位置づけ	施策	芸術文化・文化財保護の充実		課長名	松下 成悟		担当者名	鮫島 斉				
	基本事業	文化財保護の充実・活用		事業年度	-		(H29)	207926				
開始のきっかけや取り巻く状況	開館から34年経過し、館内外各箇所に老朽化・劣化がみられ、展示機器も古くなり、来館者及び利用者のニーズに応えられていなかったため。					予算事業コード	(H30) 176002					
事業概要	対象	利用者、施設					事業主体	市				
	手段	「私たちの種子島」紹介ビデオリニューアル・関連機器・ジオラマ修繕・「鉄砲館」名称看板設置、2階展示室改修					実施計画	○	総合戦略 -			
	意図	安全に管理し、利用者は満足できる施設とする。					過疎	-	辺地 -			
年度別	前年度(平成28年度)			当該年度(平成29年度)			次年度(平成30年度)					
事業内容	開館から34年経過し、館内外各箇所に老朽化・劣化がみられ、鉄砲館という案内看板もないことや展示内容を大きく変更できないなどの多くの課題も発生していることから、県補助事業を活用して、種子島の文化・観光交流の拠点施設として、来館者及び利用者のニーズに応えた機能の向上を図る。「私たちの種子島」紹介ビデオリニューアル・関連機器・ジオラマ修繕			開館から34年経過し、館内外各箇所に老朽化・劣化がみられ、鉄砲館という案内看板もないことや展示内容を大きく変更できないなどの多くの課題も発生していることから、県補助事業を活用して、種子島の文化・観光交流の拠点施設として、来館者及び利用者のニーズに応えた機能の向上を図る。「鉄砲館」名称看板設置			開館から34年経過し、館内外各箇所に老朽化・劣化がみられ、鉄砲館という案内看板もないことや展示内容を大きく変更できないなどの多くの課題も発生していることから、県補助事業を活用して、種子島の文化・観光交流の拠点施設として、来館者及び利用者のニーズに応えた機能の向上を図る。2階展示室改修					
従事職員数(人)	担当課	2	関係課		臨時		担当課	2	関係課		臨時	
財源	決算額	1,872 (千円)		決算額	1,230 (千円)		予算額	5,862 (千円)				
	006 修繕料	1,872		040 看板作成	1,230		006 修繕料	5,862				
	特定	935	一般	937	特定	614	一般	616	特定	2,930	一般	2,932
評価指標(単位)	前年度(平成28年度)			当該年度(平成29年度)			次年度(H30)		前年度評価理由			
	中間値(事中評価)	実績値(事後評価)	目標値	中間値(事中評価)	実績値(事後評価)	目標値	中間値(事中評価)	目標値				
苦情数		2			2	2						
利用者数		26,227			30,525	28,000		31,000				
取組内容	種子島開発総合センターは、通商名鉄砲館の方が広く知られ、館外に表示がないため、苦情等があった。そのため、表示看板を建てた。											
成果	「鉄砲館」表示看板により、鉄砲館と一目でわかるようになった。また、鉄砲館周辺地図看板をつくりとても好評である。											
課題	開館34年が過ぎ、大規模な改修が必要となってきている。											

担当者が入力

②-1 振り返り (Check)

評価の視点	主な見るべきポイント								check
仕事の目的は正しく認識されているか	1	総合計画に掲げられる課題の解決手段になっているか?							○
	2	市が税金を投入して行うべき仕事か?							○
	3	正しい成果認識による成果の把握ができていないか?							○
今後も有効に機能し続けるか	1	成果の向上余地はあるか?(限界に達していないか、環境変化等で効果が失われていないか)							○
	2	類似の事業が他にないか?(一本化しても良いような仕事か他課や他団体(国県等)にはないか)							○
	3	市民や事業所(企業・NPOなど)との役割分担は適切に認識されているか?							○
効率的に行われているか	1	成果を落とさずに事業費を削減する方法(業務仕様や工法の工夫、外部委託等)はないか?							○
	2	業務のやり方を工夫して業務時間を削減できないか。正規職員以外でできる仕事ではないか?							○
公平な仕組みになっているか	1	同じ条件をもった市民や団体が公平に扱われているか?							○
	2	受益者負担は適正に設定されているか?(非受益者から見ても納得が得られるか)							○

課長が記入

②-2 振り返り (Check) ※委託料/負担金補助及び交付金/扶助費/貸付金の執行額がある場合には該当する欄を確認

課長が記入	評価の視点	主な見るべきポイント		check
	補助金・負担金支出により団体等を支援する事業	1	補助金、負担金支出の理由となる事業実績は把握されており、金額は適正か？	
2		交付団体が活動により生まれた成果の報告を受け、把握されているか？		
3		同種活動をする団体のうち一部の団体のみに交付するなど、不公平な仕組みになっていないか		
現金・現物の給付事業	1	所得制限が設定されているか。設定されていない場合、それが妥当と言えるか？		
	2	国・県その他の団体が行う事業と重複をしていないか。重複する場合、問題はないか？		
融資・貸与を行う事業	1	市の支援範囲は妥当か？		
	2	国・県その他の団体が行う事業と重複をしていないか。重複している場合、問題はないか？		
	3	融資事業では、債権管理が適切になされているか？		
委託事業	1	明確な目的のもとで委託がなされているか？		
	2	委託先が固定化していないか？固定している場合、自治法の随意契約理由に適っているか？		
	3	市が求める成果水準を達成しているか？		
	4	適切な委託費（予算）が確保されているか？		

② 【総合評価】 振り返り (Check)

総合評価（課長）	評価結果の根拠及び今後の課題	施設自体の老朽化も進み、全体的な改修も必要であるが、莫大な予算が必要なため、年度ごとの改修や修繕を実施している。今後も来館者が、がっかりすることがないように利用者のニーズに応えた機能向上を図る必要がある。
A		

①計画⇒実施 (Plan⇒Do)

(3月中に記入)

事務事業名	文化財保護事業				担当課	社会教育課	担当係	文化財係										
長期振興計画の位置づけ	施策	芸術文化・文化財保護の充実			課長名	松下 成悟	担当者名	吉元 伸一										
	基本事業	文化財保護の充実・活用			事業年度	S25 -	(H29) 予算事業コード	207902										
開始のきっかけや取り巻く状況	国の文化財保護法に基づき昭和25年より開始。重要なものはそのつど指定してきている。						(H30)	176003										
事業概要	対象	文化財、市民				事業主体	市											
	手段	御拝塔墓地清掃、形之山化石群及び澁痕整備、県・新指定文化財看板制作、文化財防火訓練。				実施計画	-	総合戦略 -										
	意図	重要な文化遺産を後世に残していくとともに、市民に文化財愛護の啓蒙を行う。				過疎	-	辺地 -										
年度別	前年度（平成28年度）				当該年度（平成29年度）				次年度（平成30年度）									
事業内容	指定文化財の保存や活用を図る。また、未指定のものでも貴重なものは保存に取り組んでいく。さらに、市民の文化財保護に対する意識の高揚を行う。指定文化財の点検および看板作成・修復、予防、文化財保護の啓蒙、文化財防火デーの訓練、墓地清掃。				指定文化財の保存や活用を図る。また、未指定のものでも貴重なものは保存に取り組んでいく。さらに、市民の文化財保護に対する意識の高揚を行う。指定文化財の点検および看板作成・修復、予防、文化財保護の啓蒙、文化財防火デーの訓練、墓地清掃。				指定文化財の保存や活用を図る。また、未指定のものでも貴重なものは保存に取り組んでいく。さらに、市民の文化財保護に対する意識の高揚を行う。指定文化財の点検および看板作成・修復、予防、文化財保護の啓蒙、文化財防火デーの訓練、墓地清掃。									
従事職員数（人）	担当課	2	関係課		臨時		担当課	2	関係課		臨時		担当課	2	関係課		臨時	
財源	決算額	669 (千円)				決算額	468 (千円)				予算額	1,315 (千円)						
	001 臨時雇用者賃金	72				001 臨時雇用者賃金	68				001 臨時雇用者賃金	74						
	002 普通旅費	285				002 普通旅費	63				002 謝金	286	224 文化財保護整備					294
	040 看板作成	182				040 看板作成	194				002 普通旅費	416						
224 文化財保護整備	130				224 文化財保護整備	143				001 消耗品費	50							
	040 看板作成									040 看板作成	195							
	特定		一般	669	特定		一般	468	特定		一般	1,315						
評価指標（単位）	前年度（平成28年度）				当該年度（平成29年度）				次年度（H30）				前年度評価理由					
	中間値（事中評価）	実績値（事後評価）	目標値		中間値（事中評価）	実績値（事後評価）	目標値		中間値（事中評価）	目標値								
指定文化財数（件）		68				68	69			70		ボランティアスタッフに頼ることも必要であるが、予算計上をして計画的に環境整備を進める必要がある。						
郷土の文化財に愛着・誇りをもっている人の割合		62.1					63			65								
郷土の文化の保存・保護が大切と思う人の割合		88.5					88.7			88.9								
取組内容	鉄砲館の看板制作に取り組んだ。																	
成果	鉄砲館の看板を制作し設置することができた。																	
課題	御拝塔墓地の土砂流出がひどく墓塔が倒壊する恐れがあり対策が必要である。																	

②-1 振り返り (Check)

評価の視点	主な見るべきポイント																	check	
仕事の目的は正しく認識されているか	1	総合計画に掲げられる課題の解決手段になっているか？																	○
	2	市が税金を投入して行うべき仕事か？																	○
	3	正しい成果認識による成果の把握ができていないか？																	○
今後でも有効に機能し続けるか	1	成果の向上余地はあるか？（限界に達していないか、環境変化等で効果が失われていないか）																	○
	2	類似の事業が他にないか？（一本化しても良いような仕事か他課や他団体（国県等）にはないか）																	○
	3	市民や事業所（企業・NPOなど）との役割分担は適切に認識されているか？																	○
効率的に行われているか	1	成果を落とさずに事業費を削減する方法（業務仕様や工法の工夫、外部委託等）はないか？																	△
	2	業務のやり方を工夫して業務時間を削減できないか。正規職員以外でできる仕事ではないか？																	△
公平な仕組みになっているか	1	同じ条件をもった市民や団体が公平に扱われているか？																	○
	2	受益者負担は適正に設定されているか？（非受益者から見て納得が得られるか）																	○

②-2 振り返り (Check) ※委託料/負担金補助及び交付金/扶助費/貸付金の執行額がある場合には該当する欄を確認

課長が記入	評価の視点	主な見るべきポイント		check
	補助金・負担金支出により団体等を支援する事業	1	補助金、負担金支出の理由となる事業実績は把握されており、金額は適正か？	
2		交付団体が活動により生まれた成果の報告を受け、把握されているか？		
3		同種活動をする団体のうち一部の団体のみに交付するなど、不公平な仕組みになっていないか		
現金・現物の給付事業	1	所得制限が設定されているか。設定されていない場合、それが妥当と言えるか？		
	2	国・県その他の団体が行う事業と重複をしていないか。重複する場合、問題はないか？		
融資・貸与を行う事業	1	市の支援範囲は妥当か？		
	2	国・県その他の団体が行う事業と重複をしていないか。重複している場合、問題はないか？		
	3	融資事業では、債権管理が適切になされているか？		
委託事業	1	明確な目的のもとで委託がなされているか？		
	2	委託先が固定化していないか？固定している場合、自治法の随意契約理由に適っているか？		
	3	市が求める成果水準を達成しているか？		
	4	適切な委託費（予算）が確保されているか？		
② 【総合評価】 振り返り (Check)				
総合評価（課長）		評価結果の根拠及び今後の課題	地域の貴重な文化財を後世に残していくことは、地域づくりに結びつくが、これまで地域の貴重な文化財を地域方々が守ってきたが、高齢化により対応が厳しくなってきた。また、職員が対応するのも限界がある。ボランティア等の募集や環境整備費等予算計上して委託等も検討する必要がある。	
B				

①計画⇒実施 (Plan⇒Do)

(3月中に記入)

担当者 が 入 力	事務事業名	種子島家住宅保存活用事業				担当課	社会教育課		担当係	文化財係								
	長期振興計画 の位置づけ	施策	芸術文化・文化財保護の充実				課長名	松下 成悟		担当者名	鮫島 斉							
		基本事業	文化財保護の充実・活用				事業年度	-		(H29)	207905							
	開始のきっかけ や 取り巻く状況	平成20年度に種子島の武家社会の屋敷を市が保存活用を目的に購入し、改築整備を行い一般公開を開始したことによる。今後さらに、郷土に残る歴史的、文化的な価値のあるものを残していこうとする傾向が高くなる。また管理運営については、平成24年度より指定管理者制度を導入しており、さらなる利活用を図る。						予算事業コード (H30)		176005								
	事業概要	対象	市民						事業主体		市							
		手段	住宅および周辺の整備、管理体制の検討、住宅の利活用の促進。						実施計画	○	総合戦略	-						
		意図	自分たちの郷土の歴史や文化財に興味をもってもらい、文化遺産を後世に残していくとともに、市民に文化財愛護の啓蒙を行う。						過疎	-	辺地	-						
	年度別	前年度 (平成28年度)				当該年度 (平成29年度)				次年度 (平成30年度)								
	事業内容	平成20年度に購入した種子島家住宅の保存、管理、活用を行っていく。 平成24年度から指定管理者制度を導入。 指定管理者への指導、連絡会の開催。				平成20年度に購入した種子島家住宅の保存、管理、活用を行っていく。 常に情報を共有するため連絡会の開催等。				平成20年度に購入した種子島家住宅の保存、管理、活用を行っていく。 指定管理者への指導、連絡会の開催。								
	従事職員数(人)	担当課	2	関係課		臨時		担当課	2	関係課		臨時		担当課	2	関係課		臨時
財源	決算額	4,877 (千円)				決算額	4,095 (千円)				予算額	4,218 (千円)						
	006 修繕料	560				006 修繕料	345				006 修繕料	300						
	002 手数料	6				002 手数料	6				002 手数料	6						
	009 シロアリ駆除	211				009 シロアリ駆除	65				009 シロアリ駆除	65						
	089 住宅管理	3,634	257 イヌマキ保全	425		089 住宅管理	3,634				089 住宅管理	3,800						
	096 浄化槽維持管理	41				096 浄化槽維持管理	45				096 浄化槽維持管理	47						
	特定	一般				4,877	特定	一般				4,095	特定	一般				4,218
評価指標 (単位)	前年度 (平成28年度)				当該年度 (平成29年度)				次年度 (H30)				前年度 評価理由					
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値		中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値		中間値 (事中評価)	目標値								
入館者数(人)		8,918				9,661	9,500			9,700		指定管理者の並々ならぬ努力で入館者も年々増加している。今後で連携を図る。行政としては、文化財としてふさわしい形での修繕や改修を実施する。(庭園内トイレ)						
郷土の文化財に愛着・誇りを持っている人の割合		62.1					63			65								
取組内容	今年度は、県の補助事業を活用し景観に配慮した屋外トイレを設置できた。																	
成果	おもてなしが好評で入館者が、開館時より毎年増加している。																	
課題	最近大人数での入館者が増えてきた。その対応についても協議していく必要がある。																	

②-1 振り返り (Check)

課長 が 記 入	評価の視点	主な見るべきポイント										check	
	仕事の目的は 正しく認識 されているか	1	総合計画に掲げられる課題の解決手段になっているか?										○
		2	市が税金を投入して行うべき仕事か?										○
		3	正しい成果認識による成果の把握ができていないか?										○
	今後も有効に 機能し続けるか	1	成果の向上余地はあるか? (限界に達していないか、環境変化等で効果が失われていないか)										○
		2	類似の事業が他にないか? (一本化しても良いような仕事か他課や他団体(国県等)にはないか)										○
		3	市民や事業所(企業・NPOなど)との役割分担は適切に認識されているか?										○
	効率的に 行われているか	1	成果を落とさずに事業費を削減する方法(業務仕様や工法の工夫、外部委託等)はないか?										○
		2	業務のやり方を工夫して業務時間を削減できないか。正規職員以外でできる仕事ではないか?										○
	公平な仕組みになっ ているか	1	同じ条件をもった市民や団体が公平に扱われているか?										○
2		受益者負担は適正に設定されているか? (非受益者から見て納得が得られるか)										○	

②-2 振り返り (Check) ※委託料/負担金補助及び交付金/扶助費/貸付金の執行額がある場合には該当する欄を確認

課長が記入	評価の視点	主な見るべきポイント		check
	補助金・負担金支出により団体等を支援する事業	1	補助金、負担金支出の理由となる事業実績は把握されており、金額は適正か？	
2		交付団体が活動により生まれた成果の報告を受け、把握されているか？		
3		同種活動をする団体のうち一部の団体のみに交付するなど、不公平な仕組みになっていないか		
現金・現物の給付事業	1	所得制限が設定されているか。設定されていない場合、それが妥当と言えるか？		
	2	国・県その他の団体が行う事業と重複をしていないか。重複する場合、問題はないか？		
融資・貸与を行う事業	1	市の支援範囲は妥当か？		
	2	国・県その他の団体が行う事業と重複をしていないか。重複している場合、問題はないか？		
	3	融資事業では、債権管理が適切になされているか？		
委託事業	1	明確な目的のもとで委託がなされているか？		○
	2	委託先が固定化していないか？固定している場合、自治法の随意契約理由に適合しているか？		○
	3	市が求める成果水準を達成しているか？		○
	4	適切な委託費（予算）が確保されているか？		○
② 【総合評価】 振り返り (Check)				
	総合評価（課長）	評価結果の根拠及び今後の課題	指定管理者である「ひとつ葉の会」の並々ならぬ努力で入館者も年々増加している状況にあるので、今後も連携を図る。観光面が表だって、本来の文化財としての認識が薄れないようにする必要もある。	
	A			

①計画⇒実施 (Plan⇒Do)

(3月中に記入)

担当者が入力	事務事業名	旧上妻家住宅保存整備活用事業						担当課	社会教育課			担当係	文化財係									
	長期振興計画の位置づけ	施策	芸術文化・文化財保護の充実						課長名	松下 成悟			担当者名	沖田純一郎								
		基本事業	文化財保護の充実・活用						事業年度	28 -			(H29)	207927								
	開始のきっかけや取り巻く状況	平成27年、上妻家住宅が売りに出された。この住宅は、文化的価値が極めて高く、立地も歴史的に貴重であることから、土地・建物を市で取得し、文化財施設・観光施設として利活用を図っていくこととなった。今後は国登録文化財となり、保存活用整備計画を立案し、文化庁の補助事業として土地・建物を含めた総合的な整備を行っていく。									予算事業コード	(H30) 176006										
	事業概要	対象	市民、文化財									事業主体	市									
		手段	国登録文化財への登録、一般公開の実施、整備・保存活用計画策定準備、住宅及び周辺の維持管理									実施計画	○ 総合戦略 -									
		意図	文化財の保存保護に努め、文化財に親しみをもち郷土に誇りをもつ、文化財を活用した地域の活性化									過疎	- 辺地 -									
	年度別	前年度(平成28年度)						当該年度(平成29年度)						次年度(平成30年度)								
	事業内容	土地・住宅の取得 資料整理 住宅の維持管理						国登録文化財への登録 一般公開の実施 住宅の維持管理 資料の整理 文化庁との協議						住宅の現状維持に努める 文化庁と協議し保存活用計画の策定準備を図る(歴史文化活用係との連携) 一般公開の実施 資料の整理、公開								
	従事職員数(人)	担当課	2	関係課		臨時	1	担当課	2	関係課		臨時	1	担当課	3	関係課	2	臨時	1			
	財源	決算額	31,773 (千円)						決算額	1,907 (千円)						予算額	1,738 (千円)					
		001臨時雇用者賃金	954	006修繕料		001臨時雇用者賃金	1,129	005光熱水費	43	001臨時雇用者賃金	1,026	005光熱水費	52	002謝金	42	002手数料	641	002謝金	20	006修繕料	162	
		002謝金	42	002手数料	641	002謝金	10	006修繕料	230	002謝金	20	006修繕料	162	002普通旅費	30	096浄化槽維持管理	1,054	002普通旅費	70	002普通旅費	72	
	001消耗品費	8	002土地購入費	17	003特別旅費	161	096浄化槽維持管理	26	003特別旅費	166	096浄化槽維持管理	26	001消耗品費	23	001消耗品費	23	002燃料費	3	002燃料費	5		
	002燃料費	3		29,000	001消耗品費	32			001消耗品費	23			002燃料費	5								
005光熱水費	22			002燃料費	4			002燃料費	5													
	特定	一般 31,773						特定	一般 1,907						特定	一般 1,738						
評価指標(単位)	前年度(平成28年度)						当該年度(平成29年度)						次年度(H30)						前年度評価理由			
	中間値(事中評価)	実績値(事後評価)	目標値	中間値(事中評価)	実績値(事後評価)	目標値	中間値(事中評価)	目標値														
整備状況(%)			5	5		10	10				15	関係機関との連携が必要。歴史・文化・教育・まちづくり、観光資源として保存活用をすすめる、地域の活性化につなげていく。										
一般公開日数			5	3		16	8				16											
取組内容	国登録文化財として住宅主屋・門が登録となった。、一般公開(3回)を実施し普及啓発に努めた。																					
成果	一般公開には多くの市民が訪れた。いけばな展を住宅で開催し、好評であった。																					
課題	保存活用計画の策定(文化庁補助事業として)、整備の実施、住宅の維持管理(清掃)、資料の整理																					

②-1 振り返り (Check)

課長が記入	評価の視点	主な見るべきポイント																check	
	仕事の目的は正しく認識されているか	1	総合計画に掲げられる課題の解決手段になっているか?																○
		2	市が税金を投入して行うべき仕事か?																○
		3	正しい成果認識による成果の把握ができていないか?																○
	今後も有効に機能し続けるか	1	成果の向上余地はあるか?(限界に達していないか、環境変化等で効果が失われていないか)																○
		2	類似の事業が他にないか?(一本化しても良いような仕事か他課や他団体(国県等)にはないか)																○
		3	市民や事業所(企業・NPOなど)との役割分担は適切に認識されているか?																○
	効率的に行われているか	1	成果を落とさずに事業費を削減する方法(業務仕様や工法の工夫、外部委託等)はないか?																○
		2	業務のやり方を工夫して業務時間を削減できないか。正規職員以外でできる仕事ではないか?																○
	公平な仕組みになっているか	1	同じ条件をもった市民や団体が公平に扱われているか?																○
		2	受益者負担は適正に設定されているか?(非受益者から見て納得が得られるか)																○

②-2 振り返り (Check) ※委託料/負担金補助及び交付金/扶助費/貸付金の執行額がある場合には該当する欄を確認

課長が記入	評価の視点	主な見るべきポイント		check
	課長が記入	補助金・負担金支出により団体等を支援する事業	1	補助金、負担金支出の理由となる事業実績は把握されており、金額は適正か？
2			交付団体が活動により生まれた成果の報告を受け、把握されているか？	
3			同種活動をする団体のうち一部の団体のみに交付するなど、不公平な仕組みになっていないか？	
現金・現物の給付事業		1	所得制限が設定されているか。設定されていない場合、それが妥当と言えるか？	
		2	国・県その他の団体が行う事業と重複をしていないか。重複する場合、問題はないか？	
融資・貸与を行う事業		1	市の支援範囲は妥当か？	
		2	国・県その他の団体が行う事業と重複をしていないか。重複している場合、問題はないか？	
		3	融資事業では、債権管理が適切になされているか？	
委託事業		1	明確な目的のもとで委託がなされているか？	
		2	委託先が固定化していないか？固定している場合、自治法の随意契約理由に適しているか？	
		3	市が求める成果水準を達成しているか？	
		4	適切な委託費（予算）が確保されているか？	
② 【総合評価】 振り返り (Check)				
	総合評価（課長）	評価結果の根拠及び今後の課題	本市の貴重な建造物であり、種子島の歴史を語るうえで、市民の財産として保護していくのは、当然であると思います。今後、活用についての協議を検討しなければならないが、文化財保護法の改正により、市町村での保存活用の地域計画を策定することにより、改修等の軽微な現状変更が自治体判断できるようなど、手続きが簡素化することとなる。今後、関係課と連携してまちづくりを含めた保存活用計画策定を行う必要がある。	
	A			

①計画⇒実施 (Plan⇒Do)

(3月中に記入)

担当者が入力	事務事業名	発掘調査(市営農政事業)事業						担当課	社会教育課				担当係	文化財係					
	長期振興計画の位置づけ	施策	芸術文化・文化財保護の充実						課長名	松下 成悟				担当者名	吉元 伸一				
		基本事業	文化財保護の充実・活用						事業年度	28 -				(H29)	207924				
	開始のきっかけや取り巻く状況	市営農政事業に伴い平成25・26年度に発掘調査を行った遺跡の整理作業をJ実施し、発掘調査報告書を刊行する。文化財の記録保存・普及啓発・活用を図る。										予算事業コード	(H30) 176009						
	事業概要	対象	市民、文化財										事業主体	市					
		手段	整理作業の実施、報告書を刊行										実施計画	○	総合戦略	-			
		意図	文化財の記録保存を行い、郷土の歴史を明らかにし、文化財の公開・普及啓発を図る										過疎	-	辺地	-			
	年度別	前年度(平成28年度)						当該年度(平成29年度)						次年度(平成30年度)					
	事業内容	報告書作成に係る整理作業						報告書作成に係る整理作業						報告書作成に係る整理作業 報告書の刊行					
	従事職員数(人)	担当課	1	関係課		臨時	4	担当課	1	関係課		臨時	4	担当課	2	関係課		臨時	4
	財源	決算額	3,068 (千円)				決算額	3,969 (千円)				予算額	4,593 (千円)						
		007社会保険料	36	004印刷製本費	67	007社会保険料	42	001臨時雇用者賃金	3,590	004印刷製本費	70	001臨時雇用者賃金	46	004印刷製本費	600				
		001臨時雇用者賃金	2,630	001通信運搬費	150	001臨時雇用者賃金	8	001通信運搬費	115	001通信運搬費	8	001通信運搬費	3,788	001通信運搬費	8				
		002普通旅費	31	023遺物実測	76	002普通旅費	74	001消耗品費	70	023遺物実測	115	002謝金	50	002普通旅費	31				
		001消耗品費	70	237年代測定		001消耗品費	70			001消耗品費	70	001消耗品費	31	001消耗品費	70				
	特定	一般				3,068	特定	一般				3,969	特定	一般				4,593	
評価指標(単位)	前年度(平成28年度)						当該年度(平成29年度)						次年度(H30)		前年度評価理由				
	中間値(事中評価)	実績値(事後評価)	目標値				中間値(事中評価)	実績値(事後評価)	目標値				中間値(事中評価)	目標値					
整理遺物数(箱)		38	45				30	35					47	事業量増による 1 専門的職員配置 が必要である。					
報告書刊行数																			
取組内容	整理作業に着手することができた。																		
成果	整理作業を行い、遺物の分類を進めていくことができた。																		
課題	遺物数が膨大であり、整理作業が思うように進まない。担当職員の業務が煩雑で整理作業に係る臨時職員への業務指示、作成した図面等のチェックが行き届かない。																		

②-1 振り返り (Check)

課長が記入	評価の視点	主な見るべきポイント																check	
	仕事の目的は正しく認識されているか	1	総合計画に掲げられる課題の解決手段になっているか?																○
		2	市が税金を投入して行うべき仕事か?																○
		3	正しい成果認識による成果の把握ができていないか?																○
	今後も有効に機能し続けるか	1	成果の向上余地はあるか?(限界に達していないか、環境変化等で効果が失われていないか)																○
		2	類似の事業が他にないか?(一本化しても良いような仕事か他課や他団体(国県等)にはないか)																△
		3	市民や事業所(企業・NPOなど)との役割分担は適切に認識されているか?																○
	効率的に行われているか	1	成果を落とさずに事業費を削減する方法(業務仕様や工法の工夫、外部委託等)はないか?																○
		2	業務のやり方を工夫して業務時間を削減できないか。正規職員以外でできる仕事ではないか?																○
	公平な仕組みになっているか	1	同じ条件をもった市民や団体が公平に扱われているか?																○
		2	受益者負担は適正に設定されているか?(非受益者から見て納得が得られるか)																○

②-2 振り返り (Check) ※委託料/負担金補助及び交付金/扶助費/貸付金の執行額がある場合には該当する欄を確認

課長が記入	評価の視点	主な見るべきポイント		check
	補助金・負担金支出により団体等を支援する事業	1	補助金、負担金支出の理由となる事業実績は把握されており、金額は適正か？	
2		交付団体が活動により生まれた成果の報告を受け、把握されているか？		
3		同種活動をする団体のうち一部の団体のみに交付するなど、不公平な仕組みになっていないか？		
現金・現物の給付事業	1	所得制限が設定されているか。設定されていない場合、それが妥当と言えるか？		
	2	国・県その他の団体が行う事業と重複をしていないか。重複する場合、問題はないか？		
融資・貸与を行う事業	1	市の支援範囲は妥当か？		
	2	国・県その他の団体が行う事業と重複をしていないか。重複している場合、問題はないか？		
	3	融資事業では、債権管理が適切になされているか？		
委託事業	1	明確な目的のもとで委託がなされているか？		
	2	委託先が固定化していないか？固定している場合、自治法の随意契約理由に適しているか？		
	3	市が求める成果水準を達成しているか？		
	4	適切な委託費（予算）が確保されているか？		
② 【総合評価】 振り返り (Check)				
	総合評価（課長）	評価結果の根拠及び今後の課題	専門職員が1名ということで、遺物数が膨大であり、なかなか作業が計画どおりに進まないところであるが遺物の分類を進めていくことができず。平成30年度、正規職員の専門職の配置により計画的な作業実施が望めるのではないか。	
	B			

①計画⇒実施 (Plan⇒Do)

(3月中に記入)

担当者 が 入力	事務事業名	市内遺跡発掘調査等事業						担当課	社会教育課			担当係	文化財係									
	長期振興計画の位置づけ	施策	芸術文化・文化財保護の充実						課長名	松下 成悟			担当者名	沖田純一郎								
		基本事業	文化財保護の充実・活用						事業年度	28 - 30			(H29)	207925								
	開始のきっかけや取り巻く状況	過去に行った未整理の遺物及び、情報が不明な周知の遺跡について、郷土の歴史を伝え、文化財を活用するために資料の再整理及び発掘調査を行う。									予算事業コード	(H30)			176006							
	事業概要	対象	市民、文化財									事業主体	市									
		手段	発掘調査、資料再整理作業、報告書の刊行									実施計画	○ 総合戦略 -									
		意図	資料の再整理を行い、郷土の歴史を明らかにし、文化財を公開活用する									過疎	- 辺地 -									
	年度別	前年度(平成28年度)						当該年度(平成29年度)						次年度(平成30年度)								
	事業内容	発掘調査の実施 資料再整理作業						発掘調査の実施 資料再整理作業						資料再整理作業 報告書作成作業 報告書の刊行								
	従事職員数(人)	担当課	1	関係課		臨時	1	担当課	1	関係課		臨時	1	担当課	2	関係課		臨時	1			
	財源	決算額	3,222 (千円)						決算額	2,061 (千円)						予算額	2,056 (千円)					
		007社会保険料	485					007社会保険料	10	119地形測量	151	007社会保険料	12									
		001臨時雇用者賃金	1,734					001臨時雇用者賃金	1,089	026重機借上	137	001臨時雇用者賃金	905	004印刷製本費	476							
	001費用弁償	57					002普通旅費	39	038機材借上	398	002普通旅費	27	038機材(借上)	336								
	002普通旅費	60	026重機借上	136			003特別旅費	27			003特別旅費	58										
001消耗品費	274	038機材借上	476			001消耗品費	210			001消耗品費	242											
特定	1,454	一般	1,768			特定	1,080	一般	981	特定	1,064	一般	992									
評価指標(単位)	前年度(平成28年度)						当該年度(平成29年度)						次年度(H30)		前年度 評価理由							
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値				中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値				中間値 (事中評価)	目標値								
再整理遺物数 (パンケース)		10	10				15	10					15	未整理資料の再整理を実施し、開発総合センターで展示公開することにより、郷土に誇りをもたせ、地域の活性化に結びつけていく。								
報告書作成進捗率		10	10				30	30			40		100									
遺物整理遺跡		1	1				1	1			2		2									
取組内容	未整理資料の整理作業。発掘調査の実施。																					
成果	発掘調査(内城址)では、遺構が確認された。資料再整理では、新たな資料の発見があった。																					
課題	再整理の遺物数が予想以上に多い。発掘調査では、引き続き内城址の調査を行い、遺構の広がりを把握する。																					

②-1 振り返り (Check)

課長 が 記入	評価の視点	主な見るべきポイント																check	
	仕事の目的は正しく認識されているか	1	総合計画に掲げられる課題の解決手段になっているか?																○
		2	市が税金を投入して行うべき仕事か?																○
		3	正しい成果認識による成果の把握ができていないか?																○
	今後も有効に機能し続けるか	1	成果の向上余地はあるか?(限界に達していないか、環境変化等で効果が失われていないか)																○
		2	類似の事業が他にないか?(一本化しても良いような仕事か他課や他団体(国県等)にはないか)																△
		3	市民や事業所(企業・NPOなど)との役割分担は適切に認識されているか?																○
	効率的に行われているか	1	成果を落とさずに事業費を削減する方法(業務仕様や工法の工夫、外部委託等)はないか?																○
		2	業務のやり方を工夫して業務時間を削減できないか。正規職員以外でできる仕事ではないか?																○
	公平な仕組みになっているか	1	同じ条件をもった市民や団体が公平に扱われているか?																○
		2	受益者負担は適正に設定されているか?(非受益者から見て納得が得られるか)																○

②-2 振り返り (Check) ※委託料/負担金補助及び交付金/扶助費/貸付金の執行額がある場合には該当する欄を確認

課長が記入	評価の視点	主な見るべきポイント		check
	課長が記入	補助金・負担金支出により団体等を支援する事業	1	補助金、負担金支出の理由となる事業実績は把握されており、金額は適正か？
2			交付団体が活動により生まれた成果の報告を受け、把握されているか？	
3			同種活動をする団体のうち一部の団体のみに交付するなど、不公平な仕組みになっていないか	
現金・現物の給付事業		1	所得制限が設定されているか。設定されていない場合、それが妥当と言えるか？	
		2	国・県その他の団体が行う事業と重複をしていないか。重複する場合、問題はないか？	
融資・貸与を行う事業		1	市の支援範囲は妥当か？	
		2	国・県その他の団体が行う事業と重複をしていないか。重複している場合、問題はないか？	
		3	融資事業では、債権管理が適切になされているか？	
委託事業		1	明確な目的のもとで委託がなされているか？	
		2	委託先が固定化していないか？固定している場合、自治法の随意契約理由に合っているか？	
		3	市が求める成果水準を達成しているか？	
		4	適切な委託費（予算）が確保されているか？	
② 【総合評価】 振り返り (Check)				
	総合評価（課長）	評価結果の根拠及び今後の課題	未整理等資料の再整理を実施して展示公開することにより、市民へ本市の歴史についての普及啓発を図りたいところではあるが再整理の遺物数が予想より多いため計画的に進んでいない状況である。発掘調査での内城址では、遺構が発見された。今後も引き続き内城址の調査を継続し遺物の広がり把握する必要がある。	
	B			

①計画⇒実施 (Plan⇒Do)

(3月中に記入)

担当者が入力	事務事業名	民俗文化財調査事業				担当課	社会教育課	担当係	文化財係					
	長期振興計画の位置づけ	施策	芸術文化・文化財保護の充実			課長名	松下 成悟	担当者名	鮫島 斉					
		基本事業	伝統文化・民俗芸能の保存と活用			事業年度	H28 - H30	(H29)	207923					
	開始のきっかけや取り巻く状況	平成24年3月、国の選択文化財となった「西之表の種子鉄製作技術」について、未だ記録作成等の措置が講じられていない。文化庁の指導もあり、民俗文化財調査費国庫補助を導入した調査を実施。						予算事業コード	(H30) 176102					
	事業概要	対象	文化財、市民				事業主体	市						
		手段	国選択文化財(種子鉄製作技術)にかかる調査委員会の開催・現地調査の実施				実施計画	○	総合戦略	-				
		意図	郷土の歴史や文化財に興味を持ってもらい、重要な文化遺産を後世に残していくとともに、市民に文化財愛護の啓蒙を行う。				過疎	-	辺地	-				
	年度別	前年度(平成28年度)				当該年度(平成29年度)			次年度(平成30年度)					
	事業内容	市内における民俗文化財等について、保存・保護・活用を図るうえで、散逸・衰滅・変容の恐れあるもの又は市の文化を理解するうえでとくに重要性が認められるものを対象に、国庫補助を導入した調査をおこなう。さらには、市民の文化財保護に対する意識の高揚を目指す。 ①調査専門委員会の設置(設置要綱立案・委員選定・召集依頼)②委員会開催(委員日程調整・旅費支給・資料作成・議案のための事前調査)③現地調査の実施(資料収集・調査地の確認及び調整)				市内における民俗文化財等について、保存・保護・活用を図るうえで、散逸・衰滅・変容の恐れあるもの又は市の文化を理解するうえでとくに重要性が認められるものを対象に、国庫補助を導入した調査をおこなう。さらには、市民の文化財保護に対する意識の高揚を目指す。 ①委員会開催(委員日程調整・旅費支給・資料作成・議案のための事前調査)②調査の実施(資料収集・調査地の確認及び調整)			市内における民俗文化財等について、保存・保護・活用を図るうえで、散逸・衰滅・変容の恐れあるもの又は市の文化を理解するうえでとくに重要性が認められるものを対象に、国庫補助を導入した調査をおこなう。さらには、市民の文化財保護に対する意識の高揚を目指す。 ①委員会開催(委員日程調整・旅費支給・資料作成・議案のための事前調査)②報告書作成(執筆依頼・校正・入稿等)					
	従事職員数(人)	担当課	2	関係課		臨時		担当課	2	関係課		臨時		
	財源	決算額	2,023 (千円)				決算額	2,654 (千円)			予算額	2,696 (千円)		
		007 社会保険料	5			10	007 社会保険料	10	003 特別旅費	141	007 社会保険料	11	003 特別旅費	146
		001 臨時雇用者賃金	331				001 臨時雇用者賃金	810	001 消耗品費	50	001 臨時雇用者賃金	816	001 消耗品費	50
	002 謝金	258				002 謝金	257	001 通信運搬費	7	002 謝金	609	004 印刷製本費	540	
	003 普通旅費	180				001 費用弁償	836	297 科学分析	420	001 費用弁償	420	001 通信運搬費	77	
003 特別旅費	1,162				002 普通旅費	123			002 普通旅費	27				
001 消耗品費	87													
特定	1,073	一般		950	特定	1,408	一般	1,246	特定	1,320	一般	1,376		
評価指標(単位)	前年度(平成28年度)				当該年度(平成29年度)			次年度(H30)		前年度評価理由				
	中間値(事中評価)	実績値(事後評価)	目標値		中間値(事中評価)	実績値(事後評価)	目標値	中間値(事中評価)	目標値					
指定文化財数(件)		68				68	69		70	後継者育成に向けての課題把握。				
文化財保護関連行事(回)		8				12	9		10					
地域の伝統行事や文化事業を観覧した人の割合		1,100				1,500	1,000		1,700					
取組内容	今回の調査事業は、3年事業で今年は2年目であった。順調に調査もでき、委員会も開催され、次年度の報告書作成の準備はできた。													
成果	旧上妻家住宅の公開など、文化財関連行事を多く開催でき、市民にも文化財に触れてもらえる機会をつくることができた。次年度本調査事業の報告書も作成されるので、多くの市民にも民俗文化技術に触れてもらいたい。													
課題	報告書を作成することで、記録作成等の措置は講じられるが、技術を継承していく後継者育成について課題がある。													

②-1 振り返り (Check)

課長が記入	評価の視点	主な見るべきポイント										check	
	仕事の目的は正しく認識されているか	1	総合計画に掲げられる課題の解決手段になっているか?										○
		2	市が税金を投入して行うべき仕事か?										○
		3	正しい成果認識による成果の把握ができていないか?										○
	今後も有効に機能し続けるか	1	成果の向上余地はあるか?(限界に達していないか、環境変化等で効果が失われていないか)										○
		2	類似の事業が他にないか?(一本化しても良いような仕事か他課や他団体(国県等)にはないか)										○
		3	市民や事業所(企業・NPOなど)との役割分担は適切に認識されているか?										○
	効率的に行われているか	1	成果を落とさずに事業費を削減する方法(業務仕様や工法の工夫、外部委託等)はないか?										○
		2	業務のやり方を工夫して業務時間を削減できないか。正規職員以外でできる仕事ではないか?										○
	公平な仕組みになっているか	1	同じ条件をもった市民や団体が公平に扱われているか?										○
		2	受益者負担は適正に設定されているか?(非受益者から見て納得が得られるか)										○

②-2 振り返り (Check) ※委託料/負担金補助及び交付金/扶助費/貸付金の執行額がある場合には該当する欄を確認

課長が記入	評価の視点	主な見るべきポイント		check
	補助金・負担金支出により団体等を支援する事業	1	補助金、負担金支出の理由となる事業実績は把握されており、金額は適正か？	
2		交付団体が活動により生まれた成果の報告を受け、把握されているか？		
3		同種活動をする団体のうち一部の団体のみに交付するなど、不公平な仕組みになっていないか		
現金・現物の給付事業	1	所得制限が設定されているか。設定されていない場合、それが妥当と言えるか？		
	2	国・県その他の団体が行う事業と重複をしていないか。重複する場合、問題はないか？		
融資・貸与を行う事業	1	市の支援範囲は妥当か？		
	2	国・県その他の団体が行う事業と重複をしていないか。重複している場合、問題はないか？		
	3	融資事業では、債権管理が適切になされているか？		
委託事業	1	明確な目的のもとで委託がなされているか？		
	2	委託先が固定化していないか？固定している場合、自治法の随意契約理由に適っているか？		
	3	市が求める成果水準を達成しているか？		
	4	適切な委託費（予算）が確保されているか？		
② 【総合評価】 振り返り (Check)				
	総合評価（課長）	評価結果の根拠及び今後の課題	地域の貴重な文化財を後世に残していくことは、地域づくりに結び付く。記録保存だけに努めるのではなく、今後、普及啓発活動を行いながら、市民に文化財的価値の認識を高めてもらい、保存・保護に努める。伝承については、関係部署等と協議をしながら、後継者育成についての課題解決に努める。	
	A			

①計画⇒実施 (Plan⇒Do)

(3月中に記入)

担当者 が 入 力	事務事業名	種子島西之表市いけばな展開事業				担当課	社会教育課				担当係	文化財係							
	長期振興計画の位置づけ	施策	芸術文化・文化財保護の充実				課長名	松下 成悟				担当者名	沖田純一郎						
		基本事業	伝統文化・民俗芸能の保存と活用				事業年度	H28 - H30				(H29)	207928						
	開始のきっかけや取り巻く状況	平成27年度に鹿児島県で開催された国民文化祭において、本市は「華道の祭典 in 種子島」を開催し大盛況であった。この成果を一過性にすることなく、継続して取り組んでほしいとの要望がある。いけばなに親しむ場の提供に努めてほしいとの意見がある。										予算事業コード	(H30)				176103		
	事業概要	対象	市民、伝統文化										事業主体	市					
		手段	いけばな展開、いけばな体験の実施、文化交流会の開催										実施計画	○ 総合戦略 -					
		意図	伝統文化であるいけばなに興味・関心をもってもらい、郷土の歴史を知り、伝統文化を通して、地域の活性化を図る。										過疎	- 辺地 -					
	年度別	前年度(平成28年度)					当該年度(平成29年度)					次年度(平成30年度)							
	事業内容	いけばな展開 いけばな体験教室の実施 文化交流会の開催					いけばな展開 いけばな体験教室の実施 文化交流会の開催					30年度は、明維新150周年、市制施行60周年記念の冠をつけて開催。県連合華道会を招聘してのいけばな展は今回で最後となるため、これまでの集大成として体育館での開催となる。 いけばな展開 いけばな体験教室の実施 文化交流会の開催							
	従事職員数(人)	担当課	1	関係課		臨時	4	担当課	1	関係課		臨時	4	担当課	1	関係課		臨時	4
	財源	決算額	1,807 (千円)					決算額	1,750 (千円)					予算額	4,370 (千円)				
		002謝金	791					002謝金	893				002謝金	1,962					
		002普通旅費	112					002普通旅費	121				002普通旅費	120					
	003特別旅費	60					003特別旅費	30				003特別旅費	90						
	001消耗品費	54					001消耗品費	160				001消耗品費	212						
004印刷製本費	167					004印刷製本費	418				004印刷製本費	338							
	001通信運搬費		79			001通信運搬費		80			001通信運搬費		160						
	040看板作成		47			040看板作成		160			040看板作成		300						
	215会場設置		497			215会場設置		160			215会場設置		1,188						
	特定	903 一般			904	特定	875 一般			875	特定	911 一般			3,459				
評価指標(単位)	前年度(平成28年度)					当該年度(平成29年度)					次年度(H30)					前年度 評価理由			
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値			中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値			中間値 (事中評価)	目標値							
いけばな展観覧者数		762	300				450	300				1,500			今後も継続していく事業である。してあげれば、開催日の設定(28年度は市民フェアと同日)				
開催期間(日数)		2	2				2	2											
取組内容	鹿児島県連合華道会、市内華道団体の協力を得て、予定通りいけばな展を開催した。																		
成果	多数の来場者があった。体験教室には定員を超える多くの人が参加した。作品や出展流派等に、興味をもってくれた。																		
課題	市内華道団体の育成。県連合華道会との連携の推進。																		

②-1 振り返り (Check)

課長 が 記 入	評価の視点	主な見るべきポイント																check	
	仕事の目的は正しく認識されているか	1	総合計画に掲げられる課題の解決手段になっているか?																○
		2	市が税金を投入して行うべき仕事か?																○
		3	正しい成果認識による成果の把握ができていないか?																○
	今後も有効に機能し続けるか	1	成果の向上余地はあるか?(限界に達していないか、環境変化等で効果が失われていないか)																○
		2	類似の事業が他にないか?(一本化しても良いような仕事か他課や他団体(国県等)にはないか)																○
		3	市民や事業所(企業・NPOなど)との役割分担は適切に認識されているか?																○
	効率的に行われているか	1	成果を落とさずに事業費を削減する方法(業務仕様や工法の工夫、外部委託等)はないか?																○
		2	業務のやり方を工夫して業務時間を削減できないか。正規職員以外でできる仕事ではないか?																○
	公平な仕組みになっているか	1	同じ条件をもった市民や団体が公平に扱われているか?																○
2		受益者負担は適正に設定されているか?(非受益者から見て納得が得られるか)																○	

②-2 振り返り (Check) ※委託料/負担金補助及び交付金/扶助費/貸付金の執行額がある場合には該当する欄を確認

課長が記入	評価の視点	主な見るべきポイント		check
	補助金・負担金支出により団体等を支援する事業	1	補助金、負担金支出の理由となる事業実績は把握されており、金額は適正か？	
2		交付団体が活動により生まれた成果の報告を受け、把握されているか？		
3		同種活動をする団体のうち一部の団体のみに交付するなど、不公平な仕組みになっていないか		
現金・現物の給付事業	1	所得制限が設定されているか。設定されていない場合、それが妥当と言えるか？		
	2	国・県その他の団体が行う事業と重複をしていないか。重複する場合、問題はないか？		
融資・貸与を行う事業	1	市の支援範囲は妥当か？		
	2	国・県その他の団体が行う事業と重複をしていないか。重複している場合、問題はないか？		
	3	融資事業では、債権管理が適切になされているか？		
委託事業	1	明確な目的のもとで委託がなされているか？		
	2	委託先が固定化していないか？固定している場合、自治法の随意契約理由に合っているか？		
	3	市が求める成果水準を達成しているか？		
	4	適切な委託費（予算）が確保されているか？		
② 【総合評価】 振り返り (Check)				
	総合評価（課長）	評価結果の根拠及び今後の課題	平成27年度、鹿児島県にて開催された国民文化祭での事業で「いけばな展」を開催して種子島の華道の歴史について市民に啓発することができた。この成果を一過性にとどめなく平成28・29年度と規模を縮小しながらも市民への一流作品の鑑賞機会や地元華道団体の育成や展示する機会の提供を行い、普及啓発について継続することができた。平成30年度でこの事業は、終了するが、これまでの成果を振り返りながら島内華道団体の活動の充実を図り歴史文化の継承に努める。	
	A			